下野市立南河内第二中学校

平成29年度

第 14 号

Ｈ３０.２.２０
発行者
上野　保久

校長室だより

『旅立ちの日に』に寄せて

『旅立ちの日に』は、本校の卒業式式歌としてしばらく続いています。この歌は、１９９１年に埼玉県秩父市立影森中学校で作られ、最初に歌われました。当時荒れていた学校を歌の力で生徒たちの心に訴えかけ、心晴れやかに歌う楽しさを知ってもらおうと、『歌声の響く学校』を目指して取り組んだのがきっかけだそうです。当初生徒は抵抗し、なかなかうまくいきませんでしたが、粘り強く取り組み、学校が平常を取り戻し、生徒たちに歌うことの楽しさを味わわせることができたそうです。実に３年間の時間を要して・・・。その集大成として、「卒業する生徒たちのために、何か記念になる、世界にひとつしかないものを残したい！」と当時校長の小嶋登氏が作詞し、音楽教諭の坂本浩美氏が作曲し、「３年生を送る会」で先生方が卒業生に向けて歌ったのがはじめであったということです。たった１回だけの披露のはずが、次の年も生徒たちが歌うようになり、しばらく影森中学校で歌われた後、次第に周りの小中学校でも歌われるようになって、今では全国の多くの小中学校で卒業式の定番のように歌われるようになりました。

この歌は、今夢と希望をもって新たな世界に向けて旅立つ君に対して、勇気をもってどこまでも飛んでほしいという願いと、仲間や後輩、先生や家族、そして自分に対して、これまでの学校生活を振り返り、その思い出を『力』に変えて希望に向かい旅立つのだという覚悟とを美しいメロディにのせて歌い上げています。

言葉の持つ力と音楽の持つ力を集結させたものが合唱だと私は思っています。この歌ができたいきさつと、今生徒たちの思いは、必ずしも一致していないかも知れませんが、旅立つ人に贈る歌として、また、旅立つ人が覚悟を決める歌として、卒業式にふさわしい歌だと思います。どうぞ、ご期待ください。

立志記念スキー宿泊学習に臨んで

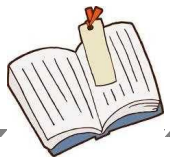
１月２４日（水）～２６日（金）に立志記念スキー宿泊学習に生徒引率として同行しました。私は、今回で４回目の生徒引率になります。１回目は９年前に教頭として引率しました。本来は校長が引率する予定でしたが、当日の朝、校長が腹痛がひどくて参加できずということで代行することになったのでした。急きょの交代であったため、スキーのセットもウェアも予約しておらず、長靴を履いて参加したことを覚えています。今回も、生徒たちはインストラクターさんに基本からていねいに教わり、スキーが初めての生徒であっても驚くほど上達しました。基本をきちんと学ぶことの大切さを実感しました。

校長として引率して、この学習は感動の３日間でした。立志式もたいへん立派な式になりました。すばらしい態度で述べる一人一人の『誓いの言葉』を聞きながら、きっとこの誓いを生涯忘れないだろうと思いました。

記念講演としてお招きした遠藤裕也さんは平成８年生まれの大学生でした。福島県富岡町の富岡第二中学校２年生の時に東日本大震災で被災しました。「あったかい飯が食えるのは、決して『あたりまえ』ではないということ」、「良いことは共に、悪い事は止めてくれるのが良い友だち。良い友だち関係を築いてほしいということ」と、経験から学んだことをお話しいただきました。

２年生にとって、たいへん有意義な宿泊学習だったと思います。

これはおすすめ私の一冊



『素直な心になるために』
松下　幸之助（まつした　こうのすけ）著　ＰＨＰ文庫　５５５円

著者は、パナソニックを一代で築き上げた経営者で、「経営の神様」と呼ばれた人です。倫理教育としてＰＨＰ研究所の設立も行いました。人間が幸せに生きていくために必要なことは、「素直な心」をお互いがもつことであるという考え方から、本書は、多くの人々が素直な心についての理解や認識を更に深め、少しでも素直な心になっていくための参考書として書かれました。

「素直な心の効用」や「素直な心がない場合の弊害」、「素直な心を養うための実践」について、わかりやすくていねいな言葉で述べています。例えば、互いに意見が食い違っても、私心を押さえて、素直な心で相手の意見を聞き謙虚に学び合うことで、更にプラスの意見になっていくというのです。どの項目においても、自分を振り返るのに参考になることばかりです。

この本は学生時代に出会いましたが、今では私の座右の書の一冊になっています。

～　～

素直な心というものは、すべてに対して学ぶ心で接し、そこから何らかの教えを得ようとする謙虚さをもった心である。　　「すべてに学ぶ心」の頁のリード文より

お知らせ

○　２月９日（金）下野市社会福祉協議会に、車椅子を２台寄贈しました。当日は福祉委員会委員長のＯ・Ａさんと副委員長のＨ・さんが代表で手渡しました。

本年度もリサイクル回収及びベルマーク回収にご協力いただき、本当にありがとうございました。おかげさまで、年度当初の目標である車椅子２台を下野市社会福祉協議会に寄付することができ、微力ながら地域の方々に役立てていただくことができました。

今後も、リサイクル品、ベルマークともに回収していきますので、引き続きご協力の程よろしくお願いします。

○　Pepper プログラミングコンテストの全国大会（中学生部門）において『銀賞』を受賞しました。１２月１６日（土）の「第１回下野市プログラミングコンテスト」に優勝し全国大会の切符をいただいたきました。

そして、このたび、２月１１日（日）、東京都汐留のソフトバンク本社で行われた全国大会に出場しました。正式な大会名称は「pepper 社会貢献プログラム（スクールチャレンジ）プログラミング成果発表会」といいます。１年生の総合的な学習でのグループ研究から発展した成果発表でした。市の大会では全員での発表でしたが、全国大会ではその代表としてＫ・Ｈさん、Ｉ・Ｓさんが成果を発表しました。

校長室の窓から

○　『親の心子知らず』という言葉通り、親の心は、なかなか子どもには伝わりません。親がどれだけ子どもを大切に思っているか、うすうすは感じていますが、反発した勢いで、素直に感謝できないときもあります。

スキー宿泊学習で家族からの手紙を読んで、涙を流す生徒を多く見ました。「自分の知らないことがあって、感謝の気持ちがわきました。」「泣いてしまいました。こんなにも自分のことを思ってくれているんだと思ったからです。」「家の人もこの手紙を書きながら泣いてしまっていると思います。」「親の気持ちを知って、改めて感謝しました。」私が感想を聞くと、このような言葉が返ってきました。

うすうす感じていることを言葉や態度で確認できると、それは実感に変わるのだと思いました。